九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学附属図書館の2015年度Webサービス改修プロジェクト

林, 豊
九州大学附属図書館eリソースサービス室リポジトリ係

大田, 海
九州大学附属図書館eリソースサービス室eリソースサポート係

堀, 優子
九州大学附属図書館利用支援課

兵藤, 健志
九州大学附属図書館eリソースサービス室eリソースサポート係

他

https://doi.org/10.15017/1669727

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報. 2015/2016, pp.21-24, 2016-08. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

報告

九州大学附属図書館の 2015 年度 Web サービス改修プロジェクト

林 豊[†]　大田 海[‡]　堀 優子[§]　兵藤 健志[**]　星子 奈美[††]

<抄録>
九州大学附属図書館では，2013 年度に大幅にリニューアルした Web サービスに対する利用者の反応を調査するために，2014 年度にオンラインアンケートを実施した．こうして得られた利用者の声を踏まえ，2015 年度に Web サービスの改修作業を行い, 機能改善や新機能をリリースした. これらの改修内容について簡単に報告する.

<キーワード>　Web サイト，Web サービス，ディスカバリーサービス，九大コレクション，世界の文献，Web サイトリニューアル，利用者アンケート

Kyushu University Library Webservice Improvement Project in FY2015

HAYASHI Yutaka　OTA Umi　HORI Yuko　HYODO Kenshi　HOSHIKO Nami

1. はじめに

九州大学附属図書館では, 2013 年 3 月にWebサイト[1]のリニューアルを行った[2]. 続いて 2013 年 12 月の図書館電子計算機システムリプレイスでは,「九大コレクション[3]」（従来のOPACの後継．オープンソースの eXtensible Catalog）及び「世界の文献[4]」（ProQuest社の Summon）という 2 種類の検索サービス（ディスカバリーサービス）を導入し，貸出予約・更新や文献取寄せ等を申込むことができる「マイページ」機能をWebサイトに統合した．新Webサイトと九大コレクションはともにコンテンツマネジメントシステムのDrupalをベースにしており，附属図書館のWebサービス全体として統一感のあるデザインとインターフェースを実現することができた.

このように大きく姿を変えたWebサービスであるが, 実際のところ利用者にどのように受け止められているのだろうか. 利用者の反応を調査するため, 2014 年 12 月～2015 年 1 月に学内外の利用者を対象に広くオンラインアンケートを実施した（その結果については報告済みである[5]）．さらに 2015 年 11 月～12 月には，九州大学国際化学生委員会（SCIKyu）の協力のもと，留学生を対象にした英語アンケート及びインタビューを行うことができた.

こうして得られた利用者の声を踏まえ，附属図書館ではWebサービスの改修を行い, 2015 年 9 月[6]及び 2016 年 4 月[7]に機能改善や新機能をリリースした. 本稿ではこれらの改修内容について簡単に報告する.

2. 検討体制

附属図書館では図書館システムに関する検討体制として，2014 年度から「図書館システム検討室」及び業務単位のチーム（利用者サービス，ILL，図書，雑誌，メタデータ，Web，インフラ）を設置している.

Web サービスについてはこの Web チームで企画検討・実施を行っている．今回の改修は，2014～2015 年度の Web チームメンバーである筆者ら 5 名で企画を行い，図書館システム検討室での承認を経て，システムベンダーに改修を発注した.

3. 改修内容

一連の改修の対象範囲は附属図書館 Web サービスのほぼ全体に及んだが，もっとも手を加えたのは Web サイトトップページである（図 1 参照）. 以下本節では，このトップページを中心として，それぞれの改修項目の概要，背景，仕様検討上のポイント等を紹介していきたい.

[†] はやし ゆたか　九州大学附属図書館 e リソースサービス室リポジトリ係　（〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1）　E-mail: hayashi.yutaka.927@m.kyushu-u.ac.jp
[‡] おおた　うみ　九州大学附属図書館 e リソースサービス室 e リソースサポート係　（〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1）　E-mail: ota.umi.444@m.kyushu-u.ac.jp
[§] ほり　ゆうこ　九州大学附属図書館利用支援課　（〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1）　E-mail: hori.yuko.993@m.kyushu-u.ac.jp
[**] ひょうどう　けんし　九州大学附属図書館 e リソースサービス室 e リソースサポート係　（〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1）　E-mail: hyodo.kenshi.896@m.kyushu-u.ac.jp
[††] ほしこ　なみ　九州大学附属図書館図書館企画課企画係　（〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1）　E-mail: hoshiko.nami.463@m.kyushu-u.ac.jp

図 1　Web サイトトップページの改修前後の変化

3.1. 検索窓（トップページ）

図 2　九大コレクション検索窓

2015 年 9 月，Web サイトトップページの検索窓の検索対象を九大コレクションに変更した．2013 年 12 月のシステムリプレイス以降は，世界中の文献を探すことができる世界の文献が検索対象になっていた．この点については，本学の所蔵資料を探すことができる九大コレクションに変更すべきという不満の声が職員・利用者双方から寄せられており，今回のアンケートでも変更を希望する意見が多いことを確認できた．

変更に併せて，従来の検索窓には存在しなかった「九大蔵書(図書・雑誌)のみ」というチェックボックスを設置した．アンケートで九大の蔵書だけを対象にした検索へのニーズが強かったことを考慮したものである．ただし，蔵書以外にも様々なコンテンツを検索できるという九大コレクションの特徴を認識・活用してもらうために，デフォルトの設定では敢えてチェックをオフにすることにした．

3.2. 新着資料ギャラリー（トップページ）

図 3　新着資料ギャラリー

2016 年 4 月，九大コレクションの新着資料を紹介する「新着資料ギャラリー」を設置した．

新着図書の情報を RSS やメールアラート等の手段で提供している図書館は多い．従来の九大コレクションでも詳細検索画面の「登録からの期間」（「1 日」「1 週」「1 ヶ月」を選択可能）によって近い機能を提供できてはいた．しかし筆者らもこの状況で十分とは感じておらず，アンケートでも新着図書を手軽に閲覧したいという利用者のニーズが感じられたため，今回の改修に含めることにした．

当初は新着日順にソートされた資料一覧画面をイメージしていたが，ソートの実現がすぐには難しいことが判明し，別のアプローチを探った結果，ギャラリーというかたちに落ち着いた．利用者に対してより訴求する見せ方になったと感じている．

ギャラリーの内容は日次バッチによって毎朝更新される（各資料の情報は Drupal のコンテンツとして保存される）. 九大コレクションが様々なコンテンツを包含していることを伝えるために, 計 32 件の表示資料は図書に限定せず，図書 8 件，雑誌 2 件，リポジトリ（学位論文以外）4 件，学位論文 2 件，電子ジャーナル・電子ブック 4 件，貴重資料 2 件，蔵書印画像 1 件，炭鉱画像 1 件という内訳で表示している．なお，遡及入力や寄贈の資料は対象から外している. この 32 という数字は，スマートフォンやタブレットで表示した際にギャラリーの横幅が小さくなってもキリ良く表示できるように決定した.

残念ながら，図書，電子ブック，本学のデジタル化資料以外ではサムネイル画像が設定されておらず視覚的な物足りなさは否めない．また，右下の「九大コレクション新着資料一覧」をクリックすると，九大コレクションを登録からの期間＝1 ヶ月で検索した結果が表示されるが，新着日順にソートすることができない点も課題として残っている.

3.3. 開館カレンダー（トップページ）

図 4　開館カレンダー

アンケートでトップページに必要なものとして要望が多かった開館カレンダーも設置した.

他のページで表示しているカレンダーを再利用したものであり，設置自体は難しくなかったが，スマートフォンやタブレットでの表示とのバランスからレイアウトの決定に苦心した．最終的には，従来「ニュース」「イベント」の 2 列だった中段部分に「開館時間」を加えて 3 列に変更した.

3.4. バナースペース（トップページ）

図 5　バナースペース

貴重書デジタル化，学習支援，機関リポジトリ等の附属図書館の特色ある活動をよりアピールするとともに利用者に対するナビゲーションを改善するため，トップページにバナースペースを設置した.

効果的な運用のため，附属図書館の広報活動全般を担う図書館広報室がバナースペースの調整を担当することになった．バナー表示枠の数はメニュー及びサイトマップ（フッター）の項目数に合わせて 5 件に定めた．うち 4 件は内容を固定化し，右端の 1 件のみを入れ替え可能な時限枠としている.

3.5. サイト内検索（トップページ）

ナビゲーション改善のため，トップページのフッターに Google カスタム検索を利用したサイト内検索窓を設置した．なお，2015 年 10 月～2016 年 3 月の検索数は 817 件（月平均 136 件）であった.

3.6. 英語表現の見直し

冒頭で述べた留学生向けのアンケート及びインタビューを通して，Web サービスで使っている英文にはサービスや機能の内容が伝わりづらい表現が少なくないことに気付かされた.

留学生からのアドバイスを参考にし，マイページを中心に全面的な見直しを行った．例えば，マイページの「紹介状の発行」（他大学図書館への紹介状の申込みフォーム）は「Letters of Introduction」と翻訳していたが，機能の内容がイメージしやすい「Visiting Other Libraries」と改めた.

3.7. Retina ディスプレイ対応

Google Analytics によると，附属図書館 Web サービスへのモバイル端末によるアクセス（セッション数）は，Web サイトでは全体の約 25%，九大コレクションでは約 21%，世界の文献では約 12%を占めている．そしてそれらの 6 割以上が iPhone 及び iPad からのアクセスであった.

附属図書館 Web サービスは iPhone や iPad の Retina ディスプレイ（高精細液晶）を前提に開発されているわけではないため，使用している画像ファイルの解像度が一般的に低く，これらの Retina ディスプレイで表示するとぼやけてしまっていた.

そこで，主要な画像ファイルについては 4 倍（縦横それぞれ 2 倍）の解像度で再製作をベンダーに依頼した．再製作が困難な場合にはソフトウェアによる機械的な変換処理が限界であったが，抜本的な解決ではないものの実用上問題が少ないレベルには改善できたと感じている.

これからもディスプレイの高解像度化は進むと予想され，今後は最初から Web サービスの仕様に含めておくべき要件であろう.

3.8. その他

その他の改修項目には以下がある．

- 研究費での資料購入（図書）におけるデータ入力補助機能の追加（マイページ）
- 所蔵コレクションの検索機能の改善（Web サイト）
- セルフアーカイブ（リポジトリ）画面の全面的な見直し（マイページ）

また，従来の Web サイトトップページは検索窓・ニュース・イベント情報というシンプルな構成であったが，一連の改修によってパーツが増えてきたため，引き続き全体がすっきり見えるように，フォントのサイズや色，パーツ間のマージン等，細かなデザイン（CSS）調整にも少なくない時間を割いた．

4. アクセス数の変化

今回の改修でもっとも顕著に利用者の反応が確認できたのは，世界の文献と九大コレクションのアクセス数の変化である．

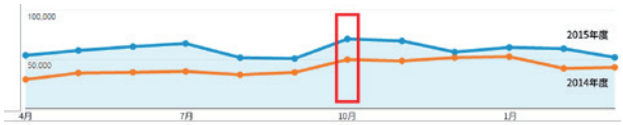

図 6　九大コレクションのセッション数

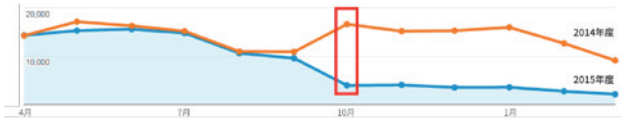

図 7　世界の文献のセッション数

図 6 及び図 7 は，両サービスについて 2014 年度と 2015 年度における月別セッション数を Google Analytics で出力した結果をもとに作成したものである．九大コレクションでは 2015 年度のセッション数が前年度よりも全体的に増加しており，対して世界の文献では 2015 年 10 月以降激減していることが分かる．セッション数だけではなくページビュー数についても同様の傾向が見られた．

これらの変化の要因は Web サイトトップページの検索窓を変更したこと（3.1 節）だと考えるのが自然であろう．世界の文献は，トップページに検索窓が設置されているために自然と利用されていたという側面が明らかになったと言える．一方，現在でも根強いユーザーが存在していることが窺え，今後も推移を注視していきたい．

なお，Web サイトについては，2014 年度と 2015 年度のセッション数及びページビュー数を比較してみたところ特に大きな変化は見られなかった．

5. おわりに

2013 年 12 月の図書館電子計算機システムリプレイスから 2 年以上が経過し，現在は 2017 年 12 月予定の次期システムリプレイスの仕様策定に取り掛かっている段階である．残念ながら今後は現在の Web サービスを大きく改修するよりも次期システムでの実現を目指すという判断が多くなるかもしれないが，可能な限りの改善をひとつひとつ重ねていきたい．

アンケートで見かけた「機能を増やすよりも，まずは多くのユーザーが使う基本機能の使い勝手を高めて欲しい」という意見が印象強く残っている．派手な新機能や高度なサービスを謳う前に，まずは基本的なサービスの完成度を高めたい．そうやって利用者の信頼を勝ち得た上でしか届かないものがあるだろうと思う．

参考文献

[1] 九州大学附属図書館. https://www.lib.kyushu-u.ac.jp, (参照 2016-05-31).

[2] “新ウェブサイトのリリースについて”. 九州大学附属図書館. 2013-03-28. https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/news/832, (参照 2016-05-31).

[3] 九大コレクション | 九州大学附属図書館. http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp, (参照 2016-05-31).

[4] World Contents | Kyushu University Library. http://kyushu.summon.serialssolutions.com, (参照 2016-05-31).

[5] 林豊，大田海，堀優子，星子奈美．九州大学附属図書館九州大学附属図書館のWebサイトに関するアンケート実施報告．九州大学附属図書館研究開発室年報．2015, 2014/2015, p. 46-54, doi:10.15017/1523959. http://doi.org/10.15017/1523959, (参照 2016-05-31).

[6] “ウェブサイトのトップページを改善しました”. 九州大学附属図書館. 2015-09-29. https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/news/1792, (参照 2016-05-31).

[7] “ウェブサイト＆九大コレクションの新機能リリース”. 九州大学附属図書館. 2016-04-13. https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/news/2499, (参照 2016-05-31).